

【vol.60】 ディミニッシュスケールを使う時 ~その2~

どうも、大沼です。

前回は、コード進行の中に普通に dim コードが登場した場合のディミニッシュスケールの使い方を学びました。

引き続き、ディミニッシュについてやっていくのですが、今回は、**マイナーキーのドミナント7thコードの上でディミニッシュ・スケールを使う**というお話です。

いつも通り、やっていきましょう。

譜例のキーは、わかりやすく key=Am です。例えばツーファイブだとなりますね。

譜例 1、key=Am、II m7(b5)–V 7– I m7

The musical score for Example 1 is in 4/4 time and Am key. It consists of three measures:

- Measure 1: Chord Bm7(b5) (II m7(b5)). Treble clef notes: G4, B4, D5. Bass clef notes: G2, B2, D3. Fingering: 1 (G), 8 (B), 5 (D).
- Measure 2: Chord E7 (V 7). Treble clef notes: G#4, B4, D5. Bass clef notes: G2, B2, D3. Fingering: 2 (G#), 8 (B), 7 (D).
- Measure 3: Chord Am7 (I m7). Treble clef notes: G4, A4, C5. Bass clef notes: G2, A2, C3. Fingering: 5 (G), 8 (A), 5 (C).

The dynamic marking *mf* is present in the first measure.

要するに、このコード進行で言うならば、E7の所でディミニッシュ・スケールを使ってみようよ、という話です。

仮に、それぞれのコードで使うべきスケールを具体的に表すならば、こんな感じになります。

Bロクリアン
(=Aエオリアン=Aナチュラルマイナー)

G#ディミニッシュ
=Bディミニッシュ
=Dディミニッシュ
=Fディミニッシュ

Aエオリアン=Aナチュラルマイナー
Aマイナーペンタ

Aマイナーペンタ

Bm7(b5) E7 Am7

mf

T 6 5 5
A 7 7 5
B 7 7 5

※このE7(V7)上で使えるスケールには
他にも選択肢がありますが、今回は
ディミニッシュのみで考えましょう。

Bm7(b5)と Am7 については、key=Am のダイアトニックコードなので、
A ナチュラルマイナー(=A エオリアン)を基準にしたチャーチモードのスケールが
そのまま当てはまりますね。

まあ、難しく書きましたが、要するに、

2つとも Am キーのダイアトニックコードなんだから、その上では、
A ナチュラルマイナースケールや A マイナーペンタで弾けば良い

ってコトです。

他の選択肢としては、ジャズ系のスタイルなどでは、
「I m7 上でメロディックマイナーがどうこう」とかはありますが、
今回はディミニッシュの話なので、素直に A マイナーペンタなどで行きましょう。

では、今回の大事なところ。きっと譜面を見て、気になっているであろう、

『なんで E7 の所で、そんなトニックのディミニッシュスケールが出てくんねん？』

という部分の解説に入っていきますよか。

さてさて、ちょっと過去のテキストを思い出して欲しいのですが、
ハーモニックマイナーについて学んだことがありましたね。(※vol.52~56の辺り)

その時、

『本来、マイナーキーの基準スケールである、
ナチュラルマイナースケールから成り立つダイアトニックコードには、
V7は入っていない』

という話をしました。

そして、

『そのV7は、ナチュラルマイナーではなく、ハーモニックマイナーの
ダイアトニックスケールから持ってきているんだ』

とも、言いました。

なので今回の譜例で言えば、

E7 (V7)は、A ナチュラルマイナーではなく、
A ハーモニックマイナーのダイアトニックコードである
と言う事ですね。

わかりやすい様に、vol.53 で載せた、両者のダイアトニックコード表を
もう一度見てみましょう。

※ナチュラルマイナー

I m (I m7)	エオリアン
II m (b5) (II m7 (b5))	ロクリアン
b III (b III M7)	アイオニアン
IV m (IV m7)	ドリアン
V m (V m7)	フリジアン ⇄
b VI (b VI M7)	リディアン
b VII (b VII 7)	ミクソリディアン

※ハーモニックマイナー

I m M7	ハーモニックマイナー
II m7 b5	ロクリアン 13th
b III aug M7	アイオニアン # 5
IV m7	ドリアン # 4
V7 (b9)	ハーモニックマイナー P5th ピロウ
b VI M7	リディアン # 9
VII dim7	オルタード b b 7

見ての通り、ハーモニックマイナーの方にはV7のコードがありますね。

なぜ、ここを入れ替えるのか？については、vol.52 で解説したように、
I m7 への解決感を強める為でしたね。(※忘れていたら復習しておきましょう)

そしてもう1つ、vol.53 と 56 で、ちよろっとだけ「一応確認だけしておいてね」みたいに

お話ししていた、ハーモニックマイナーのⅦ度にディミニッシュのコードがあること。

※ハーモニックマイナー

I mM7	ハーモニックマイナー
II m7(♭5)	ロクリアン13th
♭III augM7	アイオニアン#5
IV m7	ドリアン#4
V7(♭9)	ハーモニックマイナーP5thピロウ
♭VI M7	リディアン#9
VII dim7	オルタード♭♭7

これらのモードスケールは、チャーチモードと同じように、スタートする音が違うだけで構成する音自体は全て同じでしたね。

なので、ハーモニックマイナーのモード内に同居する、

V7(♭9)に対応するハーモニックマイナーP5thピロウスケールと、
VII dim7に対応するオルタード♭♭7スケールは構成音が同じ

と言う事です。

例えば今はkey=Amなので、A音をトニックにハーモニックマイナーのモードを並べると、こうなります。

※Aハーモニックマイナーのモードスケール

AmM7	Aハーモニックマイナー
Bm7(♭5)	Bロクリアン13th
CaugM7	Cアイオニアン#5
Dm7	Dドリアン#4
E7(♭9)	EハーモニックマイナーP5thピロウ
Fm7	Fリディアン#9
G#dim7	G#オルタード♭♭7

で、これらのスケールは全て構成音が同じなわけです。

そうすると、次に「ディミニッシュスケールなくね？」と思うわけですが、構成音を見てみると、今、学んでいる4音構成のdimスケールは、このハーモニックマイナーの構成音の中にすっぽりと入っているんですね。

わかりやすく、もろにコードがディミニッシュになっている、VII dim7(G#dim7)コードに対応するG#オルタード♭♭7スケールを基準に見てみましょう。

図、A ハーモニックマイナースケールと、G#オルタード♭♭7スケールとG#dim スケールの関係

Aハーモニックマイナー=G#オルタード♭♭7

赤丸で囲った音がG#dimスケールの構成音

赤丸が今学んでいるG#dimスケールの構成音なわけですが、ちゃんと最近学んでいた4音構成のdimスケールの形になっていますよね。

構成音を見てみるとG#、B、D、Fの4音になっていて、最初の方に載せた、コード進行の上で使うべきスケール図とも一致しています。

Bロクリアン
(=Aエオリアン=Aナチュラルマイナー)

G#ディミニッシュ
=Bディミニッシュ
=Dディミニッシュ
=Fディミニッシュ

Aエオリアン=Aナチュラルマイナー
Aマイナーペンタ

Aマイナーペンタ

T	6	5	5
A	7	7	5
B	7	6	5
	7	7	5

※このE7(V7)上で使えるスケールには他にも選択肢がありますが、今回はディミニッシュのみで考えましょう。

こういった理屈(導き方)から、

「マイナーキーのV7でVII度(M7th)の音をトニックにしたディミニッシュスケール使えるじゃん！」
となるわけです。

では、解説が長くなったので、ちょっと理屈をまとめてみましょう。

これまでの話をチャートっぽくするとこんな感じです。

- 1、マイナーキーのV 7はハーモニックマイナーのダイアトニックコードから持ってきたもの
- 2、じゃあ、そのV 7のコードの上では、ハーモニックマイナー系のスケールを使うべき
- 3、ハーモニックマイナーのV 7に、元々対応しているスケールはHmp5↓スケール
- 4、だけどよく見たらハーモニックマイナーのVII度のコードには、VII dim7がある
- 5、VII dim7のコードに対応するスケールは、オルタード♭♭7スケール
- 6、オルタード♭♭7スケールの中には、4音構成のdimスケールがすっぽり入ってる
- 7、ハーモニックマイナーのモードスケールは、それぞれ構成音自体は同じ
- 8、じゃあ、key=Amだとしたら、そこにAハーモニックマイナーのモードを当てはめると、
Aハーモニックマイナー=EHmp5↓=G#オルタード♭♭7となるから、
G#オルタード♭♭7内に収まってるG#dimスケールは、
Aハーモニックマイナー内にも、EHmp5↓内にも収まってる事になる。
- 9、じゃあ、ハーモニックマイナーのダイアトニックコードから持ってきている、
マイナーキーのV 7上では、VII dimスケール(key=AmならG#dimスケール)を
使っても良いよね？

とこう言う事です。

長いなー。(苦笑)

なんだか音楽やってるはずなのに、時々数学やってるみたいな感じになるのが、
音楽理論の厄介なところな気がします。

さて、ちょっと今回、譜例まで行きたかったんですが、解説だけで非常に長くなったので、
ここまでにしておきます。

これらの理屈を把握するのは結構大変だと思いますが、指板図やダイアトニックコード表を
見ながら、じっくり繰り返し読んで頂ければと思います。

先ほどのチャートの内容を、ざっくり言ってしまうと、

マイナーキーの曲だと、本来基準スケールはナチュラルマイナーなんだけど、
V7のところだけハーモニックマイナーのコードを持っているから、
そこはハーモニックマイナー系のスケールで弾こうよ。

(※そしてその中にⅧ dim スケールも収まっているからそれも使えるよ)

と言う事ですね。

では、次回、dim スケールの指板上でのわかりやすいポジションの見方と、
実際の練習譜例をやっていきましょう。

今回の解説だけではわかりにくかったかもしれませんが、フレーズとして使ってみれば、
そこまで複雑な動きをするわけでもないのだから安心して下さい。

ありがとうございました。

大沼